

○議長（明和善一郎君） 3番 吉川孝弘君。

○3番（吉川孝弘君） おはようございます。

私のほうからは、舟橋村名所旧跡についての質問をさせていただきます。

来年度の4月ごろ、3度目となる舟橋村史が発行される運びとなり、どんな仕上がりになるか大変楽しみにしているところでございます。

舟橋村の名所旧跡を見たいと思っても、例を挙げますと、小平遺跡が舟橋地鉄高架橋の西のほうにあったと言われていています。また仏生寺城跡がアルプス農業協同組合舟橋出張所から南部周辺一帯にあったと言われてはいますが、村の紹介や資料として出ていますが、見に行ってもその影を見ることはありません。現地に痕跡を見られるものか、説明できる立て看板みたいなものをつくってはいかがでしょうか。

名所旧跡の説明の看板などがあれば、子どもたちに村の歴史を感じてもらえたり、北陸が全国的に注目されている中、散策の一つになったり、村の健康構想の一環としてのウォークラリーなどで旧跡めぐりに使えるのではないのでしょうか。村当局の意見をお聞かせください。

○議長（明和善一郎君） 教育長 高野壽信君。

○教育長（高野壽信君） おはようございます。3番吉川議員さんのご質問にお答えします。

平成24年度から進めております舟橋村史編さん作業ですが、須山先生を中心に13名の委員の方々にご苦勞いただき、新年度には村民の皆さんにお読みいただける見通しであります。

編さん作業の進捗状況の報告等につきましては、折に触れ情報発信をしてまいりましたし、新聞等でも何回か取り上げられました。

また、昨年6月から広報ふなはしに掲載しております「村史に拾う」のコーナーは、12月の広報500号で18回の連載になりました。それぞれの編さん委員が専門的見地から村の歴史についてわかりやすく丁寧に解説していただき、住民の方々の村の歴史に対する興味、関心がさらに高まったのではないかと思います。

あわせて、独立独歩の道を歩んできた舟橋村には貴重な行政資料も多く、村外の歴史研究者からもその完成に大きな期待が寄せられ、教育委員会や編さん室に発刊の予定についての問い合わせが数多く寄せられるようになりました。

さて、議員さんから、村の名所旧跡がわかりにくいので立て看板を立てたらどうかと

ご質問をいただきました。

文化的価値や考古学的価値の高いものを整備しわかりやすくして、児童生徒や村民に関心を高めてもらうことにより、それらの基本的価値を次世代に伝達していくことの重要性、必要性は十分に認識しております。

幸いに、村誌編さんを通して村民の皆さんの村の歴史や史跡などについての興味、関心の高まりの中で、保存活用に対する理解も深まっていると思います。

地域住民の方々が案内板や説明文などの製作や設置などに直接参加していくならば、史跡などを通した村づくりに大きな役割を果たすかもしれません。

しかしながら、それらの設置に当たっては、設置場所一つにしても、所有者は誰か、私有地か否かなど、また掲示内容、経費、維持管理方法など慎重に検討しなければいけない課題が幾つかあります。

まずは、村史編さんの過程で調査研究された村の歴史事実に基づき、他の多くの自治体で取り組んでいるように、村のホームページ上にわかりやすい形で順次公開していきたいと思います。

それらの過程を経た後、専門家の助言を得ながら、紙ベースでの史跡マップを作成し学校などで活用してもらったり、案内板の設置など改めて検討していきたいと思います。

なお、村史編さんで発掘された重要文献資料などはできる限り図書館やホームページ上で公開したいと考えており、このことが村民にとってふるさとに対する新たな発見、村内外の人との出会いと交流に結びつくなど、地域の活性化に役立てるように、今後とも尽力していきたいと考えております。

以上で、吉川議員さんのご質問に対する答弁とさせていただきます。

○議長（明和善一郎君） 吉川孝弘君。

○3番（吉川孝弘君） 今ほど教育長さんから大変前向きな意見をもらったと思いますが、やっぱりインターネットその他で見るより、現地に行って実際に見るのが現実的だと思っております。大変難しい点もあると思いますが、今後ともそんな方向に力を入れてもらいたいと思います。よろしくお願いします。